

出穂前の 水稻管理について

7月の農作業

出穂後の水管理 及び防除について

7月の農作業

現在、管内の水稻は順調に生育していますが、圃場によっては、いもち病が発生しているところもあります。これから出穂を迎える大切な時期なので、圃場をよく見回って管理をしましょう。

穂肥の目的

- ①肥料（養分）不足による「1穂粒数」と「登熟歩合の低下」を防ぐ。
- ②時期と施肥量 出穂の18日前から
 - ・時期が早いと穂粒数は多くなるが、草丈が長くなる。（倒伏・過繁茂）
 - ・量が多すぎると、過繁茂により登熟歩合が低下する。

出穂時期目安(予想)

- 一宮 8月3日
 - 三方 8月5日
 - 波賀 8月5日
 - 千種 8月7日
- （田植日：5月15日を基準とした場合の参考です。）



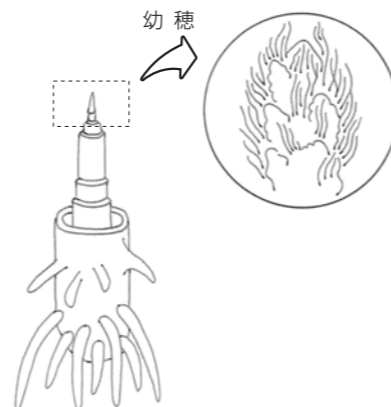
時期と基準施肥量

品種名	肥料名	穂肥第1回目	穂肥第2回目
コシヒカリ	みのり有機	出穂 18日前 反当 20kg	出穂 10日前 反当 10kg
フクヒカリ キヌヒカリ	みのり有機	出穂 20日前 反当 20kg	出穂 10日前 反当 10kg

注：穂肥の時期と量は、穂肥診断を行ってから決定してください。また、一発肥料を施用されている方は、生育に応じて穂肥（みのり有機 反当20kgまで）が必要な場合があります。

穂肥時期の診断方法

- ①平均的な株の親茎を根元からとる。（草丈の一番長い茎）
- ②圃場の対角線上に5～6株以上とり、平均して判断する。
- ③カッターやカミソリで根元から割り、幼穂の長さで穂肥時期を判断する。
 コシヒカリ → 幼穂長5～7ミリで出穂18日前
 その他の品種 → 幼穂長2ミリで出穂20日前



穂肥後の水管理：間断灌水を実施し、水を溜め続けないように注意する。（根腐れ防止のため）

出穂期前後の水管理について

- ・出穂時期1週間程度は穂を守るために深水の間断灌水を行ってください。
- ・出穂以降は水を溜めすぎないように（根傷み防止のため）間断灌水を行うようにしてください。
- ・早期落水は未熟米や胴割れ米発生の原因になりますので、落水は刈取り7～10日前にするようにしてください。
- ・出穂直後に著しい高温と水不足があると品質低下を招きます。乾燥しやすい圃場では特に注意して、十分な灌水を実施して高温障害を回避しましょう。

防除について

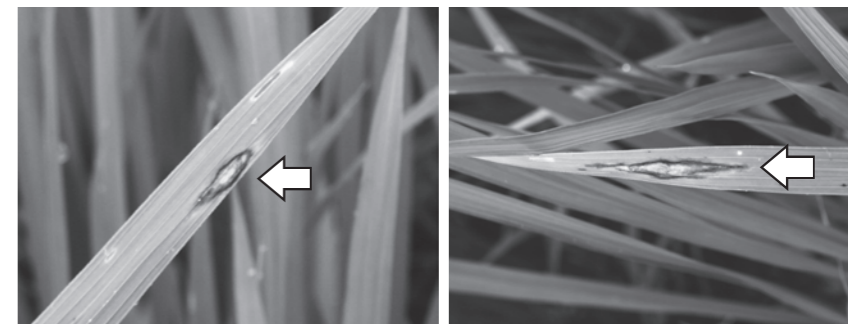
	時期	薬剤名	対象病害虫	使用量	適正使用時期
基幹防除	出穂前	ビームバシボン粒剤DL	いもち病・紋枯れ病 ウンカ類・カメムシ類	反当 3～4kg	収穫14日前まで
		コラトップトレボン粒剤	いもち病 ツマグロヨコバイ ウンカ類	反当 3～4kg	出穂5日前まで
		トップジントレボンフロアブル	いもち病・紋枯れ病 ウンカ類・カメムシ類	500倍	収穫14日前まで
臨機防除	出穂後	スタークル豆つぶ	カメムシ類	反当 250g	収穫7日前まで
		ビームエイトスタークルゾル	いもち病・ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	1,000倍	収穫7日前まで

刈取りの目安

出穂40日後（籾の85%程度黄化した頃）
 ※刈取り適期より早いと青米や未熟米が増え、刈り遅れると透明度が低下し茶米や胴割れが発生しやすくなるため、刈り遅れによる品質低下に注意しましょう。

いもち病について

圃場によってはすでに発生している所があります。山沿い、川沿いなどの気温が低い所は注意して見てください。ひし形の斑点が出ていけば、いもち病です。



※矢印にあるような斑点(赤い枠にクリーム色や灰色のひし形の斑点)が特徴です。